

問題山積 リニア中止を

JR東海の姿勢批判 ―本村議員が初質問 予算委

初質問で大臣に堂々と迫る

本村伸子衆院議員は2日の衆院予算委員会で初質問に立ち、住民の声を聞かずにJR東海が強引に進めるリニア中央新幹線計画の数々の問題点をあげ、「工事着工は認められない」と政府に迫りました。

リニア中央新幹線は、走行距離286キロメートル(東京・品川〜名古屋間)で、そのうち86%がトンネル。大都市部の55キロメートルが大深度地下(深さ40メートル以上の地中)のトンネルとなります。

本村氏は、南アルプスの山岳地帯を貫通する難工事、トンネル掘削による膨大な残土の発生、大井川(静岡県)における毎秒2トンの水量減少など環境大臣も深刻な影響があると認める今世紀最大の事業でありながら、国民への情報公開の義務がないと告発しました。

本村氏は、リニア新幹線事業は公共事業と同じく、土地収用法や不動産取得税等の非課税の適用を受ける一方、公共事業には必要な、情報公開やチェックができないと指摘。これに対し、太田昭宏国交大臣は「民間だから義務はない」と述べる一方、「可能な限り情報公開に努めることは必要だ」「地元の声に配慮しながら進めるべき」と答弁しました。

間違った説明。説明やり直しを

大深度地下に関する本村氏の質問に対し、上川陽子法務大臣は「土地の所有権はその土地の上下に及ぶ」と答弁。小関正彦・国交省都市局長は、大深度地下の

使用が認められた場合にも、所有権は、消滅しないことを認めました。

本村氏は、JR東海がホームペー
ジで「認可を受け使用する場合には、地上の権利が及ばない」と、所有権が消滅するかどうかのような説

明をしていると告発。「丁寧な説明どころか、間違った説明をしている。これを撤回させ、説明し直させるべきだ」と迫りました。これに対し、藤田耕三・国交省鉄道局長は「正確で分かりやすい説明をするよう指導する」と述べました。

さらに本村氏は、東京都町田市と川崎市での説明会で、土砂搬出について異なる説明がされていることを指摘。長野県大鹿村での説明会では、JR東海が「地元の理解と同意がなければ着工できない」と繰り返し約束したことについて、実行を求めました。太田国交大臣は「地元の理解と協力を得ることが重要だ」「丁寧に説明するよう指導監督する」と繰り返し述べました。

本村氏は、最後に「住民の皆さんの不安は全く解消されていません。未解決、未説明の問題が山積している。こういう工事を認めるべきでない！」と述べ、質問を終えました。

本村議員の話

党国会議員団・秘書の皆様、東海ブロック・中央委員会、そして、リニア沿線の地方議員・予定候補、住民の皆様は大変お世話になりながらの質問づくりでした。草の根のネットワークのある日本共産党だからこそできた質問だと思えます！すべての皆様に心からの感謝を申し上げます。

質問中に「いい質問だ」と他党の議員も応援してくださいました。質問後、大島予算委員長が「リニアを大阪までどんどんやれという意見もあるが、話を聞いて、問題が多いということがよくわかった」と他党の議員にも話しかけていました。

次の質問は、3月10日。皆様への感謝の気持ちを次の質問に実らせていきたいと思えます。

佐々木憲昭前議員の話 (Facebookより)

大深度地下について、法務大臣は「土地の所有権はその土地の上下に及ぶ」と答弁しました。所有権はなくなっていないのに、JR東海はウソの説明をしています。この事実を暴露されると、政府は「JR東海に対して正確で分かりやすい説明をするよう指導する」と答弁せざるを得ませんでした。大深度地下の使用申請も認可も終わっていません。大臣も「申請がなされた場合には法令に従って対応する」と言いました。これは一本とった質問ですね。たいへん良かったと思います。本村伸子さん、堂々とした初質問でした。

●島津議員は9日公聴会、10日予算委員会分科会で質問に立ちます

